

特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブパレット

2021 年度 事業報告書

2021 年度事業報告書

1) 事業の成果

《パレット》

1. **パレットの理念に基づいた事業の充実と安定した運営を図ります。**
 - ・ パレット創設から 22 年が経ち、継承すべき理念と、時代に即した変化の必要性を話し合いました。
 - ・ コロナ禍にあつて、利用者もスタッフも不安な日々が続きましたが、そのような中でも親子の気持ちに寄り添い、事業を継続しました。
 - ・ 助成金を活用して、コロナの影響で休まざるをえないスタッフへの補償にもできる限り取り組みました。
 - ・ 財政部門では、ワーカーの働き方について実態調査を行い、適正な労働の対価について検討しました。
 - ・ こども家庭支援課見守り保育事業の安定した運営を行い、次年度も受託しました。一人シフトという特殊性を鑑み、前日にシフト確認をするシステムを作りました。
 - ・ ぶーぶーしえすた、ラフールの 10 周年で、利用者や関係機関に感謝を伝えるイベントを開催しました。

2. **変化していく社会情勢に対応しながら、多様な親子に寄り添って適切な支援ができるよう、各事業所や関係機関と連携を密にして取り組んでいきます。**
 - ・ 産前から小学生までの多様な子育て家庭に寄り添うために、各事業所や関係機関との連携の中で把握した情報を共有しました。それを基に各事業での取り組みを考え、事業に生かしました。
 - ・ 隔月でフードパントリーを開催し、新たな関係先との連携もできました。また、ひとり親家庭の持つ悩みを直接聞く機会を得ることができ、必要とされていることを感じました。
 - ・ コロナ禍での出産、子育てをしている親子に安心して出かけられる場所や、一時預かりでリフレッシュできることを紹介し、子育てが孤立しないように働きかけました。
 - ・ オンラインを活用した様々な研修会や勉強会に参加して、社会の動きや流れを察知するよう心掛けました。

3. **安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりに努め、子育て家庭の視点からの防災、減災にも取り組みます。**
 - ・ ラフール 10 周年の企画として、子育てに対する気運を高めてもらうために「青葉区子育て応援シンボルマーク」を公募の上作成し、配布しました。
 - ・ なないろ 203 号室の「mini ひろば&何でも相談」の場が地域の方にとって身近な居場所となるよう、環境を整え広報に努めてきました。
 - ・ 子育てタクシーの周知活動や、ドライバーを通じて利用したお子さん向けに塗り絵ができる用紙の配布を行いました。コロナ禍で手渡しが難しく、今後検討が必要です。
 - ・ 子育て家庭の防災・減災について検討する中で、ワーカーの自宅から各事業所までの距離や時間など報告しあい、そこから緊急時に法人全体でどのような連携ができるかを考え体制づくりをしました。

4. 法人全体の見える化を図り、発信力を高めて広い世代にパレットの活動を伝え、子育て支援の輪を地域に広げていきます。
 - ・ 子育て世代の抱える課題解決のために既存の事業以外の活動にも取り組みました。様々な法人、施設とつながりを持つことができています。その結果、パレットとして取り組んでいる活動を他団体や学生に知らせる機会を多数得て、丁寧に伝えることができました。
 - ・ HP のリニューアルすることになりました。より分かりやすいものを目指していきます。
 - ・ パレット定例会で他事業所を知る時間をとり、今後どんな連携ができるか、よりよい支援について考えることができました。コロナ禍でメンバー同士の交流も難しい中でも、お互いを知り法人の活性化を図ってきました。
 - ・ パレット通信を発行し、広く関係機関に配布しました。

2) 事業内容

特定非営利活動にかかるとる事業

① 保育室での保育に関する事業

《まーぶる》

1. 子どもたち一人ひとりの気持ちや声を丁寧にくみとり個々の成長を応援していきます。
 - ・ 子どもたちの成長は一人ひとり違います。月齢にとらわれないかわりを心掛けました。言葉だけでなく、表情で伝えている子どもの目線に立ち、気持ちを受け止め、安心して活動に入れるようにしました。
 - ・ 自分からしようとする姿を大切に、先回りした援助をしないように心掛けました。子どもの様子をよく観察し、流れや環境をその都度見直すようにしました。
 - ・ 一緒に遊びながら、ものや、こと、行動に言葉を添えるようにしました。
 - ・ 意欲的に行う姿を見守ったり、認めたりして、自信につながるようにしました。
 - ・ 友だちと関わりたい思いを大切に、仲立ちしたり、一緒に遊んだりして、一人ひとりが満足感をもって過ごせるようにしました。
 - ・ 自分の思いを相手に聞いてもらったうれしさに共感しつつ、相手の気持ちに気づき、聞こうとするやり取りにつながるよう丁寧にかわりました。
 - ・ 子ども同士の思いがぶつかっている時は、互いに思いを出し合っている様子を傍で見守るなど、解決を急がず、場面にあったかわりを心掛けました。
 - ・ 戸外保育で、発見したり感じたりする姿に共感的にかかわり、興味関心がさらに広がるようにしました。
 - ・ 日々のお散歩、公園遊び等を通じて長い距離を歩けるようになり、遠方の畑にお芋ほりに行くことができました。
2. 子どもたちが安全で安心して過ごせる保育環境を整えていきます。
 - ・ 感染対策に努めながらも、のびのびと過ごせるように月齢に合わせた戸外・室内遊びを工夫しました。
 - ・ パーテーションや二酸化炭素計を活用し、消毒に加え換気にも配慮しました。月に1度、様々な場面を想定した防災訓練を行い、日常の戸外活動での危険や緊急時の対応を確認、話し合いをし、安全への意識を高めました。

- ・ 3月の避難訓練では、終日にわたって地震への対応を個々で考え、ミーティングで共有しました。
 - ・ 災害備品の点検を行い、保管場所を整理し、誰でもわかりやすいようにするとともに、持出品の見直しをしました。
 - ・ 心肺蘇生訓練、消火訓練に加え、誤嚥と窒息訓練も追加し、集合してミーティングができない中でも一人ひとりが確実に訓練できるようにしました。
 - ・ 環境省熱中症予防サイトで暑さ指数を日々確認、また熱中症計も併用し、暑さ対策を行いました。
 - ・ 子ども一人ひとりの日々の体調やアレルギーの有無などについて、朝、注意事項をまとめ、初めての預かりのお子さんの名前等の確認をしっかりと行いました。また、午後への引継ぎも気を付けました。園外活動時の人数確認をこまめに行いました。
 - ・ 保育中のケガやヒヤリハットを記録し、ミーティングで共有し、安全について考えました。
3. 温かい雰囲気の中で、様々な人と関わりを持ち信頼関係を築いていくよう努めます。
- ・ 慣れない場所での不安な気持ちを受け止め、笑顔でかかわるようにしました。
 - ・ 子どもの様子を保育者間で丁寧に伝え合うことにより、一人ひとりの子どもに合ったかかわりを継続して持てることができました。
 - ・ 子どもにとっても、保護者にとっても安全で安心できる場所であるよう努めました。やりたい思いや主張を、その子のペースに合わせてかかわり、思いを受け止めました。
 - ・ 子どもの思いを言葉にしながら応え、伝えるなど、人とのかかわりの楽しさを感じられるようにしました。
 - ・ 子どもが興味をもって取り組む姿に答えて、一緒に楽しみました。
4. 保護者の気持ちに寄り添い 子どもたちの成長をともに喜び、安心して預けられるよう、十分なコミュニケーションに努めていきます。
- ・ 送迎の時間を利用し、保護者が話しやすいよう対応に気を付け、信頼関係を築けるよう努力しました。質問、疑問には丁寧に応え、不安が和らぐように配慮しました。
 - ・ 個人面談を行うことにより、お子さんの家庭での様子や悩みを聞き取ることが出来、共に考えることができました。
 - ・ 保護者の参加ができなかった季節の行事は、保育室で撮影した写真をカードにしたり、毎月発行の通信や号外を作成し、様子が少しでも感じられるよう工夫をしました。
 - ・ 通信では、食事について、衣服や靴の選び方についてなど、家庭でも子育ての参考になるような記事を掲載しました。
 - ・ お別れ会の修了証はその子ごとのコメントにし、保護者が成長を感じられるようにしました。
 - ・ 初めて預かるお子さんは、特に受け入れ時の聞き取りを丁寧に行い、帰りの際に様子を細かく報告しました。預けることに不安だった保護者からも「利用して良かった」「助かった」等、ご意見をいただきました。

5. 保育者間の連携を強め、チームとして保育に取り組みます。
 - ・ 毎月のミーティングでは、全員が発言できるような仕組みを考えました。
 - ・ 保育者間のコミュニケーションの向上に努め、一人で決めるのではなく、チームとして話し解決していきました。その中で、安心して意見を言える環境作りを進めました。
 - ・ 研修を受けた人はミーティングで報告し、他の保育者と共有するよう努めました。
 - ・ 振り返りノート、ヒヤリハットをミーティングで共有し、日々の保育に活かせるよう努めました。
6. 地域とのつながりを大切にし、関係機関と連携しながら、必要な情報の提供やサポートが出来るように努めます。
 - ・ コロナにより地域の方々との交流が制限されましたが、戸外活動の際には保育者が積極的に気持ちの良い挨拶をするよう心掛けました。声を掛けていただくこともあり、地域の方とのつながりを感じられることもありました。
 - ・ 戸外活動の時よくお会いするお子さんとは、子ども同士一緒に遊ぶ姿も見られました。
 - ・ 他の事業所でも登録説明会を行い、一時預かりや定期預かりの利用につながりました。また、誰でも利用できる保育施設が身近にあるということを広報することができました。
 - ・ 社会活動が制限された1年でしたが、地域の子育て家庭に向けて開室を続けました。また、必要な時は関係機関と連携しました。

《家庭的保育室なないろ》

1. 子ども一人ひとりの現状をありのままに受け止め、温かく受容的・応答的な関わりを持つことを大切にし、心身の成長をしっかり支える保育をしていきます。
 - ・ 子ども一人ひとりの表情、声から気持ちを受け止め、一人ひとりにあった応答的な関わりや、子どもの発達に応じた丁寧な保育を行うことを心掛けました。
 - ・ 子ども一人ひとりの成長・現状を受け止めながら、その子どもにとって最良の方法、環境を考えつつ、保育環境を整えていこうと努力しました。
 - ・ 療育センターの職員の巡回相談を受けることで、個々の子どもへのかかわり方、心身の成長を考えた保育の方法などアドバイスをもらうことができました。
2. 家庭との信頼関係を築き保護者の思いをくみ取りながら、一人ひとりの子どもの生活全体について、家庭と一体になり、互いに理解を深め、子どもの健全な心身の発達を目指します。
 - ・ 日々の連絡帳でのやり取りや、送迎時の対話を丁寧に重ねていくことで信頼関係を築き、ともに成長を支えあっていくという意識を持つことができました。今後も分かりやすい言葉と、各家庭の気持ちに寄り添いつつ、発達に応じた関わりを持てるように工夫していきます。
 - ・ 毎月発行の通信を通して、「子どもの保育室での様子」「親子での遊び」等、栄養士から「給食、栄養について」「食育について」等を載せて、保護者にお伝えしました。またそれを日頃の保育の中で行い、通信と保育室をリンクするようにしました。
 - ・ コロナ禍、昨年度と同じように保護者が保育室に入ることが無いため、少しでも保育中の子どもの様子を見ていただこうと、個人面談の際に保育中の子どもの様子を動画に撮り保護者に観ていただきました。

3. 併設の一時預かり保育室とともに活動する機会を通して、子どもたちが豊かで多様な環境と関わりながら育つことを大切にします。
 - ・ 日々の戸外活動やわらべ歌遊びなどを共に過ごす中で、様々なお友だちと接し、いろいろな経験や気づきを共有することができました。
 - ・ 一時預かり保育室のスタッフと、日々の預かり人数や子どもの様子、当日一緒に行う活動についての事前打ち合わせを行い、情報共有することで、安全に活動できるよう心掛けました。
4. 日々の振り返りやミーティングを通して、スタッフ間の連携を深め、保育の質の向上に努めます。また、園内外の研修に積極的に参加し必要な知識及び技術の習得を図ります。
 - ・ 毎日の振り返りと月一回のミーティングにより、子どもの様子を共有し、日々成長していく子どもの姿を意識しながら保育にあたることができました。また、研修が ZOOM で行われる機会が増え、栄養士は例年よりも多くの研修に参加することができました。
 - ・ コロナ禍の影響もあり、実施できない内部研修もありました。今後も内外の研修を取り入れ、必要な知識及び技術の習得に努めていきます。
5. 地域との交流を大切にし、連携園や関係機関、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図るように努めます。
 - ・ 今年度も連携園（いずみ青葉台保育園・もえぎ野幼稚園）との交流は行えず残念でした。子どもの感染が見られる中、公園での過ごし方に迷うこともありましたが、日々丁寧な挨拶を交わすことにより、お互いに安心できる距離での活動ができました。
 - ・ 203 号室でのミニ広場が地域の方の居場所となるよう、環境を整え、周知活動を積極的に行いました。
 - ・ 配慮の必要な家庭について、区の保健師さんとやり取りをし、連携を図るように努めました。
6. 食を生活の一部としてとらえ、おいしく楽しく食べる経験を重ねることを大切にします。また、野菜の栽培や実際の食材に触れる経験、食べ物につながる遊びを通して、食べ物への興味が高まるように努めます。
 - ・ 毎月の食育活動により、食べ物を身近に感じ、見て、触れて味わうことができました。七草粥は触れて楽しむところから食べるというところへつなげるのは難しかったですが、昨年あまり食べられなかったそら豆は、栄養士の工夫によりおいしく食べることができました。
 - ・ 食育ということで、食べ物を実際に手にしたり口にしたりするだけでなく、その食べ物の絵本を見たり、わらべ歌遊びをするなど、いろいろな遊びにつなげ、食育を多方面から楽しむことができました。

《一時預かり保育室なないろ》

1. パレットの理念のもと、0～2 歳児、定員 7 名の少人数の良さを生かし、子どもが安心・安全に健やかに過ごせる一時預かり保育室を目指します。
 - ・ 子ども一人ひとりが安全に楽しく過ごせるよう、受け入れ時に保護者から聞き取りをし、その日の子どもの様子や体調に応じて、細やかに対応しました。また、慣れない場所に来ている子どもの気持ちに寄り添い、一人ひとりに真摯に向き合いました。

- ・ 子どもどうしの触れ合いや遊びの中で、異年齢で過ごす良さを大切にし、安心して過ごせる保育室であるよう努めました。
 - ・ 個人記録をつけることにより、久しぶりの利用時の参考になり、スタッフ皆が共通認識を持つことができるなど、保育に生かすことができました。
 - ・ アレルギーのある子どもについては、事前に保護者からの聞き取りを行い、預かり時には、色の違う名前テープを使用し、掲示したホワイトボードにアレルギーの内容を書き留め、スタッフ間で口頭でも確認し合いました。食事時にはテーブルを離す、食直後の清掃など、細かく配慮しました。
2. **コロナ禍でも感染対策を丁寧に行い、保護者の気持ちや悩みに寄り添い、育児をサポートします。また、関係機関と連携し、一時預かりを必要とする家庭が利用できるように努めます。**
- ・ 新型コロナ感染防止対策として、換気、子どもどうしが密にならない席の配置に気を配り、おもちゃや室内の消毒を丁寧に行いました。
 - ・ コロナ禍の中、普段に増して保護者の悩みは様々となり、送迎時の保護者の表情や様子には一層気を配り、子育てに苦労されている様子が伺える時は、丁寧に聞き取り、必要なアドバイスをし、安心してもらえるよう努めました。
 - ・ 登録での来所時には、育児の状況を話してもらい、コロナ禍での妊娠中、出産前後や入院中の不安な気持ち、出かけられない孤立した育児などのお話を聞きました。
 - ・ 今年度から減免制度が始まり、必要な方が使いやすくなりました。また、行政やラフール等の依頼による様々な家庭のお子さんを預かりました。
 - ・ コロナ禍で、なかなか友だちにも会えず孤立していた中、なないろの存在に支えられた、子どもを預けてリフレッシュできるのは有難い、大変な時期の子育てを助けてもらった、などの声をいただきました。
3. **併設型保育室の良さを生かして子ども同士が交流できるように、スタッフ相互で連携します。また、それぞれの視点から、振り返りやミーティングを充実させることで、スキルアップを図ります。**
- ・ その日の預かりの子どもの月齢のみならず、個性や発達の様子についても踏まえながら、小規模保育室とともにその日の活動内容について、事前の打ち合わせを丁寧にできるように心がけました。共に協力することで、一時預かりのスタッフだけでは行えない活動も可能となりました。
 - ・ 日々、その日の保育についての振り返りを行い、戸外・室内と活動が分かれても、全員の情報を共有し、さらに保育を良くしていくための改善点について、意見交換することができました。
 - ・ 小規模保育室とともに、オンラインでのミーティングにて内部研修を行い、保育の意識を高めることができました。
 - ・ 日々の振り返りで出た意見をそのままにせず、ミーティングで共有し、皆で話し合うことができました。
 - ・ 共に公園へ出かけて小規模保育室の子どもたちと過ごす機会があることで、子どもどうしの関わり方や成長する姿を見ることができ、併設型の利点を生かす保育ができました。

4. 乳幼児一時預かり事業の意義と役割、必要性を知らせていきます。

- ・ 様々な機会を捉えて、行政や各機関にも子育て支援としての預かりの意義を伝えていきます。
- ・ 働いていてもいなくても、障がいがあってもなくても、理由の如何に関わらず、安心して預けられる保育室があることを様々な機会に伝えてきました。
- ・ 保護者に寄り添い、子育ての相談にも応じて、急な預かりにも対応しました。

《いるかくらぶ》

放課後、就労等により家庭に保護者がいない小学生が、安心して安全に過ごす事ができる居場所を提供します。

1. 子どもたちの安心安全を第一に考え、子どもたちが自ら考え安全を確保する力を育み、子どもたちが主体的に放課後の時間を豊かに創造できるよう支援します。

- ・ 2021年度も感染症対策に力を入れました。子どもたちは、前年度から気をつけていた生活様式を続けることができました。夏季がとても暑かったので、マスク熱中症にならないよう、体調の変化に気を配り、水分補給の声かけをこまめに行いました。
- ・ 公園の外遊びで、活発に動く遊びをしているときは、地域の人に配慮することができていました。公園の安全な使い方については折に触れ話し合うことで、皆が共通理解をすることができました。防災おさんぽを実施し、通学路や学校からいるかくらぶまでの道の危険箇所や防災標識などを確認して歩くこともしました。危険を避けること、危険箇所を見つけることを、少しずつ積み重ねることで、大きなケガもなく、安全に過ごすことができました。

2. 異年齢の集団の良さを生かして、遊びや活動を通して、自他共に尊重し、お互いに興味をもちあい、育ち合える環境を作ります。

- ・ 当番活動の単位である班を異年齢で構成することで、毎日の活動を通して、互いに学び合うことができました。当番活動では、異年齢で協力しながら、どうすれば効率よくできるか、なぜこの作業が効果的なのかを考え、活動できました。春と秋に、班のメンバー替えを行うことで、いろいろな人とより関わられるようにしました。
- ・ 数年前から取り入れたベーゴマ遊びが更なる発展を見せました。まわせるようになった喜びに飛び上がったり、負けた悔しさに唇を噛んだり、感情豊かに活動していました。ヤスリで削ったり、ニスを塗ったり、と加工にも広がりがありました。
- ・ お楽しみ会では、劇や合奏など、当日まで練習を積み重ねる中で関わり合いが生まれ、多くの成長がありました。

3. 子どもも保護者も、一人一人がほっとできる居場所になるよう目配り、心配り、正しい情報提供に努めます。

- ・ 季節の節目ごとに折り紙行事など行い、子どもも大人も四季の豊かさを感じられるようにしました。恒例の七夕の時期の笹かざりは保護者を和ませていました。
- ・ 週の登室頻度はご家庭によって違うので、久しぶりに来る子も安心して過ごせるよう、声かけや雰囲気作りをしました。毎日来る子も新しい発見があるように、遊びを広げる支援を行いました。近年、子どもたちの家庭での過ごし方が、動画視聴やゲームの時間が増える傾向にあり、いるかくらぶに来て、刺激の強いものを求めたり、誰かが楽しませてくれるのを待つばかりの子がいますが、心を落ち着けられる遊びや、練

習することで上達するけん玉などの昔遊びの良さを生かして、自ら遊びを創造する喜びを感じられるよう自然な形で支援しました。

- ・ ネット発信する日常の様子が、帰宅後に、親子の話題のきっかけになっているご家庭もありました。発信については、個人情報等に常に気をつけて行いました。
4. **学校と保護者とくらぶとパレットで子どもたちを見守り、地域が協力して子どもたちを育めるようお互いに協力します。**
 - ・ 学校とは、訪問やお便りなどで、緊急時の対応について確認したり、下校時の歩き方や学校及びいるかくらぶの様子を共有したりするなど連携をとりました。学級閉鎖や臨時休校となった学校もありましたが、速やかに情報を得て対応することができました。長くお休みだったご家庭は、来られた時に、特に丁寧に話を聞くことに努めました。
 - ・ 保護者とは、お迎え時に情報共有をしています。昨年度から始めたホームページや SNS は、随時更新し、内容を深めることができました。お便りでは、個々の児童や集団の良さを共有するとともに、感染症対策や安全について啓発の発信に努めました。
 5. **保護者会の協力と理解を得ながら、パレットと連携し、イベント等を工夫して、地域の理解を深めます。**
 - ・ 2021 年度も感染症対策を工夫して行事を開催しました。
 - ・ 春秋の公園清掃は短時間開催でしたが、普段使っている公園をみんなできれいにする中で交流が生まれました。公園愛護会の一員として、日常的にゴミ拾いや花壇の手入れなどを行い、地域貢献ができました。
 - ・ お楽しみ会では感染症対策のため、保護者と協力し、オンライン配信及びライブビューイングを行うことができました。
 - ・ 恒例のおもちつき大会は、感染症対策の観点から、やきいも大会に変更しました。人と会うことを自粛する世相でしたが、感染症対策を工夫して集まることができたことで、保護者同士子ども同士の関係が深まりました。特に、火を囲んで歓談する時間が、ほっとする時間となっていました。
 6. **保護者が就労している間、安心して預けられる場所を目指し、保護者の働き方の変化に柔軟に対応した運営内容を検討し取組みます。**
 - ・ 在宅勤務の保護者が増え、家庭により学童保育利用が必要な時間帯がより多様となりました。入退室時間や、習い事での出入りなど、ニーズに応じて柔軟に対応しました。
 - ・ 保護者会の会議は、オンライン形式が定着し、オンライン会議上で複数グループディスカッションを行うなど、機能を活用して話し合えるようになりました。
 - ・ 放課後児童健全育成事業の事業所が多くある昨今、放課後児童クラブとしての良さ、パレット学童保育室いるかくらぶとしての良さを再度考え、確認しました。インターネットによる情報発信では、特色を伝えることに努め、アクセス解析をし、発信内容の改善につなげました。

② 子育て中の親子の交流事業 《ぴよぴよ》

1. 近隣や地域の親子、家族、子育て支援者に「安心して利用できる広場、気軽に遊びに行ける広場」があることを知らせます。広場のタイムリーな情報や様子、地域の情報を、通信やホームページでわかりやすく発信していきます。
 - ・地域の回覧板に毎月 100 部、外部向けに約 600 部通信を配架することができました。自治会の掲示板のほか商店、病院などにも配架することができました。
 - ・通信は毎月発行し、ホームページやブログでも、広場での親子の様子やイベントの様子など、タイムリーな情報を発信してきました。また、LINE 公式アカウントも開設し、親と子のつどいの広場びよびよを知らない方にも広場をわかりやすく親しみを持ってもらえるよう努めました。
 - ・コロナ禍での広場開設は利用者の協力もあり、密を避け換気を十分行いながら広場を利用してもらうことができました。
 - ・コロナ感染状況により、定員 5 組から 3 組に減らしたこともありましたが、利用者にはご不便をおかけしましたが、感染者を出さずに開催することができました。

2. メンバーのチームワークを大切にし、自主研修や外部研修で得た情報を共有することで、スタッフ、サポーターのスキルアップに繋げ、いつでも安心して利用できる居心地の良い広場になるよう努めます。
 - ・毎月行うスタッフ会議では広場での様子を共有し、親子や家族に寄り添えるよう努めてきました。また、研修に参加した時はスタッフ間で共有し、スタッフのスキルアップに努めました。
 - ・サポーター会議も定期的に設け、スタッフと共に広場の状況を把握できるよう努めました。サポーター会議で出た意見はスタッフ会議に反映し不安なく働くことができるよう共有してきました。

3. 利用者の声を活かし、子育て家族が交流しやすい広場づくりを目指します。
 - ・授乳コーナーを新しくし、ゆっくり授乳ができる環境を整えました。利用者からは好評です。
 - ・新しいおもちゃや絵本をたくさん揃えました。特に子どもが手に取りやすい高さの棚を新しくしたことで、親子が絵本に触れる機会が増え、貸し出しも増えました。
 - ・不定期でしたが、コロナ禍でも、にちよう広場を開催しました。普段広場を利用できない親子や家族で賑わいました。次年度も開催する予定です。

4. 地域で子育て支援をしている方との交流や情報共有、地域活動への積極的な参加など繋がりを大切にしていきます。
 - ・地域で子育て支援をしている方を 0 歳児タイムにお招きし、親子遊びを通してふれあう機会を設けることができました。
 - ・保健師が開催している地域赤ちゃん教室（小黒、あざみ野会館、黒須田、山内）に出向き、広場のイベントや利用案内をしました。保健師、主任児童員の方との情報交換が出来、繋がることができました。
 - ・子育てネットワーク会議に参加し、荏田地域の子育て支援者と情報交換、交流の機会がありました。荏田地域にある資源を、より広く利用者や地域の方に知ってもらう努力を今後も続けていきたいと思えます。

5. パレットの各事業所や地域、行政と連携を深め、子育て家族を応援します。

- ・ コロナ禍で、お子さんを預ける先がない利用者のために、法人の事業所である乳幼児一時預かり保育室「子どもミニデイサービスまーぶる」や、パレット家庭的保育室なないろ併設型の「一時預かり保育室なないろ」の案内をしました。どんな時でも預け先がある安心感に繋げることができました。
- ・ コロナが未だ収束せず、地域の行事は中止、団体の行事も縮小とまだまだ行事に参加し楽しむことはできませんでしたが、今後も参加できる行事があればできる限り参加していきたいと思えます。

《ぶーぶーしえすた》

1. **すべての育児中の親子が他の親子とコミュニケーション作りができ、地域とのつながりも持ち、親子で安心して過ごせる居場所を目指します。**
 - ・ 感染症予防対策として12時と15時に館内消毒を行い、安全安心の広場環境を整え広場を開催しました。
 - ・ 週5日常設で広場を開催し、いつでも誰でも温かく迎え入れ、安心して過ごせるように環境を整えました。
 - ・ リピーター利用者が広場の雰囲気づくりに参画し、初めて来た親子ともおしゃべりを通してアドバイスしあう、助け合う場になりました。
 - ・ イベントの日だけではなく、通常の広場での親子のようすをブログにて紹介し、利用を躊躇していた親子や、居場所を探していた親子に気兼ねなく利用できる広場である事を配信しました。
 - ・ Babyタイムやお話し会、英語で遊ぼう、リズム遊びのイベントは、お子さんを膝にのせて親子と一緒に楽しむイベントとして好評でした。
 - ・ 手作りの日は、利用者さん同士がおしゃべりしながら交流できるお楽しみのイベントとなりました。利用者同士でお子さんを見守りあうこともできました。
 - ・ 広場玄関に通信やのぼりを置き、子育て親子でない地域の方にも存在を知ってもらいました。また、地域の掲示板に通信を貼って存在をアピールしました。
 - ・ イベントを行い、広場に來てもらいやすい環境を作りました。(Babyタイム、お話し会、手作りの日、英語で遊ぼう、1歳児あつまれ等)
 - ・ 育休の方向けのおしゃべり会は、保育・教育コンシェルジュとオンラインで開催しました。たくさんの親子が利用し、とても好評でした。次年度も開催予定です。
2. **ワーカー・スタッフ・ボランティアのチームワークを大切にし、外部研修などを積極的に活用しスキルアップしていきます。**
 - ・ 毎月行うスタッフ会議で情報を共有し、問題提示をし、よりよい広場になるよう話し合い、丁寧な対応に努める体制を維持することができました。
 - ・ 日々の日誌記入などで情報を共有し、ひろば運営に役立てました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアの見守りのもと、地域の親子が集い、交流しながらお互い支え合う居場所となれるよう努めました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアは利用者が話しやすい雰囲気を作り、寄り添う姿勢を大切にし、日常の悩みや育児不安を話せるように努めました。
 - ・ 相談内容は個人情報保護し、外部にももらさないことを厳守しました。
 - ・ 気になる親子や配慮が必要な場合は、スタッフ会議で情報共有を行い、場合によっては地域の保健師や主任児童委員などとも連携し、ともに見守りました。

- ・ 積極的に外部研修に参加できるようシフト調整して、行きやすい環境づくりをしました。
3. **地域交流に継続して取り組み、地域活動に積極的に参加していきます。**
 - ・ たまプラーザ地域ケアプラザや山内コミュニティハウスなどでの赤ちゃん教室で、地域の方々や保健師、主任児童委員との交流や情報の交換ができました。来年度も顔の見える関係づくりを大切にしていきます。（山内、たまプラーザ、あざみ野）
 - ・ たまプラーザ次世代タウンミーティング、子育て支援ネットワーク会議などに積極的に参加し、地域の情報交換をすることができました。
 - ・ ハロウィンイベントでは地域の商店街の方々と協力して開催することができました。
 - ・ たまプラーザ商店街の夏祭りや美しが丘ケアプラザ祭りなどに参加する予定でしたが中止となりました。
 4. **他の親と子のつどいの広場事業所やパレットの各事業所など子育て支援ネットワークを活用、連携して子育て支援の充実に努めます。**
 - ・ ネットワーク会議に参加することで、保育園、センター保育園、拠点事業の話を聴くことができました。
 - ・ まーぶるの登録説明会や横浜子育てサポートシステムの説明会などを開催し、預かりの状況などの情報を利用者へ伝えました。
 - ・ 青葉ひろば会議に出席し、それぞれの広場と連携し、情報共有しました。
 - ・ 一時預かり施設「まーぶる」や「なないろ」の情報などを利用者へ伝えました。
 - ・ 地域子育て支援拠点ラフルや一時預かり事業所やつどいの広場などの通信やパンフレットを、広場の見やすいところに掲示し利用者に伝えました。
 5. **広場での情報提供、毎月の通信の発行、ブログ、LINEなどで広場が身近にあり、気軽に来てもらえるよう情報を発信していきます**
 - ・ 区内の赤ちゃん教室、栄養相談、歯科相談などの福祉保健センターからのお知らせを見やすい所に掲示しました。また、変更などのお知らせも随時更新して行きました。
 - ・ 保健師が開催している赤ちゃん教室や地域の子育て支援者が行っているひろばで、広場の活動紹介やイベントの案内をしました。
 - ・ 自治会の掲示板に毎月通信を掲示してもらっており、子育て世代以外の方々にも広場の事を知ってもらうことができました。
 - ・ ブログや通信（毎月発行）、公式ラインで広場の様子やイベント報告、イベント情報、今後の予定を広報しました。公式ラインは毎年お友だちを増やしています。
 - ・ 保育園や幼稚園の情報を知らせるため、たまプラーザ地域の保育園情報などわかりやすくファイルしたり、一時保育の保育園情報を掲示したりしました。

③ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

《ラフル》

1. **広く区民にラフルの7つの機能を知らせ、活用につなげていきます。**
 - ・ 区の広報紙にラフルの紹介、子育てサポートシステム提供会員募集掲載の機会を得ました。多くの区民の目に留まり、ボランティアの登録や提供会員の入会希望につながりました。

- ・ HP は、ラフルの情報と地域の子育て支援情報が正確に、タイムリーに掲載されるよう更新しました。ひろばでは、見やすく、探しやすい情報配置を常に検討し工夫しました。ラフル、サテライト共に整理が進み、ブラッシュアップできました。
 - ・ 青葉台地区と市ヶ尾地区の6月の回覧板にラフルニュース5月号と2020年度の報告を掲載することができました。
 - ・ SNS でもラフルのひろばの様子や地域の子育て支援情報などを発信しました。様々な媒体を使って発信をすることで、一人でも多くの親子に情報が届くよう努めました。
 - ・ ラフルニュースの配架先が地域の店舗に広がり始めました。無印良品やドラッグストアで配架しています。
 - ・ FM サルースのラジオで継続して毎月ラフルの紹介ができました。子育てサポートシステムは、別枠で紹介の機会を得ました。
 - ・ 青葉台、市ヶ尾から遠い地区へ、妊娠期から、また多世代とのつながり作りを目的にラフルが出かけて行く「出張ラフル」を開催しました。事前に自治会の掲示板にチラシ掲載などができた地区もありラフル周知ができました。会当日も利用者、支援者にラフルの機能を紹介しました。
 - ・ 地域で開催されているひろばにパートナーや子育てサポートシステムスタッフが出かけ、相談を受け、事業の紹介をする機会を得ました。今後出かけていく機会をもっと積極的に作っていきます。
2. **ラフルが様々な立場の施設、区民とつながり、親子とつなげて「青葉区みんなで子育て」の風土を作っていきます。**
- ・ ネットワーク連絡会は、各地区年1回から2回開催し、地域の支援者と顔の見える関係を築きました。コロナ禍で個々の活動に制約がかかる中、ネットワークの大切さが以前にも増して浸透し関係が深まったと感じます。今年度は4地区で事務局を担いました。
 - ・ 支援者が知りたい情報、参加したいと思える研修テーマ、参加方法を検討し、支援者向け通信の発行、支援者向け研修の実施に取り組みました。区内の子育て支援者同士のつながりを築き、サポートする取り組みができました。
 - ・ 出張ラフルでは、その地区の支援者や保健師を招き、親子とつなげることができました。
 - ・ ラフル10周年を機に、「青葉区子育て応援シンボルマーク」の公募を行い、多数の応募を得、シンボルマークを決定しました。このシンボルマークを使って「青葉区みんなで子育て」を広める活動を行い、子育て支援のさらなる機運の高まりにつなげていきます。
 - ・ Instagram、Facebook に地域の施設で開催される子育て支援情報を掲載し、子育て家庭に伝える役割を担いました。
 - ・ 子育て応援アプリの開発を区と一緒にやり、地域の情報をラフルが一括して集約できる仕組みを作りました。子育て家庭にアプリの紹介を進めました。
3. **妊娠期からの切れ目のない支援に取り組みます。**
- ・ 区主催の母親教室で拠点を紹介してもらったことやプレパパプレママ向けの企画を通年で実施することで、新規の来所だけでなく妊娠期に複数回利用する人が増えました。また、プレパパプレママが少し先に行くパパママと交流する機会を作り、出産後にひろばで過ごすイメージを持ち、出産後の来訪につながりました。

- ・ 出張ラフールでも妊娠期の人が親子とふれあえる機会を作りました。
4. **親子の孤立を防ぎ、生き生きと過ごせる場を作ります。**
- ・ 消毒・換気・人数制限によって、安心して来所ができる環境を整えました。
 - ・ コロナ禍、子育てに戸惑う親一人ひとりに親身に寄り添い、不安の中でどのような悩みがあるのか把握し、ひろば運営に生かしました。密にならないよう工夫しながら、親同士で話ができる機会、ひろばで子を遊ばせながら学べる機会、情報を得られる機会を提供しました。ラフール 10 周年は年間通して、ラフールサテライト 4 周年は週間で記念企画を開催し、感謝の気持ちを伝えました。
 - ・ 出張企画やオンラインを使った様々な企画を行いました。講座やひろばゲスト等の動画をホームページ、Instagram で発信し、両拠点に足を運ばなくてもラフールを利用できる取り組みを続けました。親子で参加できるオンライン企画（音遊び、ヨガ）を開催し、感染不安等で外出が難しい親子にリフレッシュや交流ができる機会を提供しました。
5. **養育者、支援者、区民に向けた人材育成の機会を作るとともに、内部研修、外部研修を積極的に取り入れ、スタッフのスキルアップをはかります。**
- ・ オンラインを活用し、様々な講座や企画を行いました。オンラインひろばの講座を支援者（主任児童委員、民生委員）に向けて開催し、様々な形でのひろば開催の方法を提案することで、コロナ禍での地域の支援につなげました。
 - ・ 支援者向け研修や交流会をオンラインやハイブリッド方式で実施しました。保育園や子育て支援関連施設、主任児童委員、民生委員など地域の支援者、子育てサークルリーダーや横浜子育てサポートシステムの提供会員の参加を得ることができました。
 - ・ スタッフに向けた研修は、外部講師によるオンライン研修と相談、情報提供のための内部研修を行い、スキルアップにつなげました。
 - ・ ラフールニュースの編集サポーター、演奏ボランティア、多言語ボランティア、絵本ボランティアとして、養育者が拠点で力を発揮する機会を作り、運営に協力してもらいました。